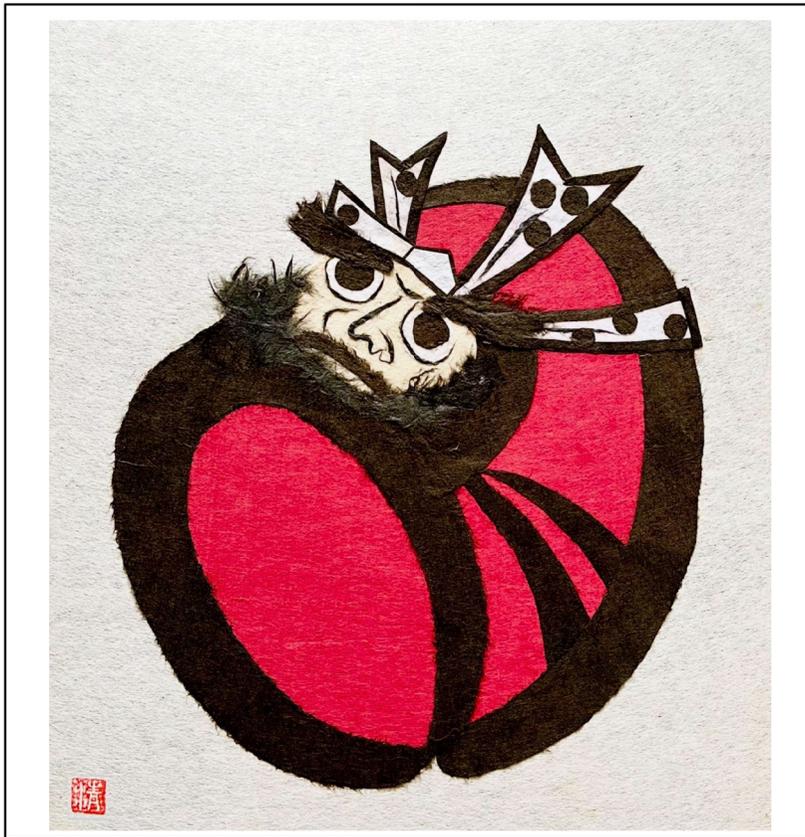


婦人会報

令和八年
立教189年 2 月 2026年



天理教婦人会旭日支部

通巻560号



教祖百四十年祭

真柱様お言葉

本日、教祖百四十年祭をつとめさせて頂くに当たりまして、国の内外各地よりお帰り頂き、誠に苦労様です。只今おつとめを滞りなくつとめ終えさえて頂きましたので、ご挨拶させて頂きたいと存じます。

教祖の年祭は、教祖がお姿を隠されたという事情があつてつとめられるようになったのであります。

稿本教祖伝第十章は、明治二十年一月一日、教祖が風呂場からお出ましの時、ふとよろめかれたという記述から始まっています。一月四日には急に御身上が迫ってきたので、飯降伊蔵様を通しておさしづを伺ったところ、「さあ／＼もう十分詰み切った。これまで何よの事も聞かせ置いたが、すつきり分からん。何程言うても分かる者は無い。これが残念。」云々とおことばがあり、この時教祖は息をせられなくなり、御身上は急に冷たく

なつたとあります。一同は驚いて、急ぎ込まれて
いるおつとめを手控えていた事へのお詫びのおつ
とめをつとめたのであります。



その後も教祖の御身上が切迫すると談じ合いを
重ね、おつとめをつとめるといふことについて、
初代真柱様の判断を仰いだのであります。初代真
柱様は即答されず、いろいろと考え抜かれたであ
らうと思いますが、その上で一月十三日、このあ
たりの日付は陽暦であります。一月十三日、教
祖の枕辺に進んでお伺い申し上げました。

問答の中で教祖は、わからんではあるまいと、
これまで説いてきたところを実行するように促さ
れました。そして、初代真柱様が、教祖の仰せと、
法律を守ることと、両方が同時に行える道を教え
て頂きたいというようなことをお願いしたとき、
教祖は「月日がありてこの世界あり、世界ありて
それ／＼あり、それ／＼ありて身の内あり、身の
内ありて律あり、律ありても心定めが第一やで。」

そもそも、月日親神がこの世人間を作った、その人間が定めたのが法律である、法律があるからつとめができないと言うが、元なる親神様の心に沿いきる心を定めることが第一であると、陽気暮らしへ進んでいくところの心の持ち方、法律に先立つ心定めをお諭し下さいました。

これはただその時居合わせた人々に対するお諭しであるばかりでなく、現在の私たちも心しなければならぬ信仰の要であります。



一月十八日からは、教祖の御身上平癒を願って、連夜お願いつとめがつとめられます。そして、二月十七日夜、教祖の御身上よろしからず、十八日、陰暦一月二十六日、いよいよ御身上が迫ってきたので、ついに意を決して、白昼堂々とおつとめをつとめたのであります。

警官はやって来ず、おつとめは無事つとめ終わりました。これで教祖はきつとお元氣になつて下さると、意気揚々と引き上げてきた人々は、教祖が御身をお隠し遊ばされたことを知り、茫然自失し、悲嘆に暮れましたが、氣を取り直しておさしづを伺うと、「さあ／＼ろつくの地にする。皆々

揃うたか／＼。よう聞き分け。これまでに言うた事、実の箱へ入れて置いたが、神が扉開いて出たから、子供可愛い故、をやの命を二十五年先の命を縮めて、今からたすけするのやで。しつかり見て居よ。今までとこれから先としつかり見て居よ。」云々とのお言葉がありました。



先に、秋の大祭の時にもお話ししたことですが、二代真柱様は「始めた理と治まりた理と、理は一つである。」とおさしづを引いて、陽気暮らしの道をお教え下されたのも、人々の成人を促して身を隠されたのも、その理は子供可愛いというをやの心一つからのことなのだ、何度もお話下さいました。

教祖は可愛い子供をたすけて陽気暮らしへと導いてやりたいとの親心から、最後の教えをお啓き下され、以来五十年にわたつてたすけ一条の道の次第を整えられ、自ら歩んでひながたの道をお遺し下された上で、今からたすけするのやでと、尚もたすけを急ぐと、定命を縮めて現身を隠され、以後、末代にわたつて、存命の理を以つてお導き下さるのであります。

この教祖の深い親心を改めて思案し、心の成人を以ってお応えすることが、教祖年祭をつとめる意義であります。



この度の年祭も、成人の歩みを一層進めていきたいと思ひ、ひながたを目標に全教が仕切つて一手一つにたすけ一条の活動に取り組もうと諭達で呼びかけたのであります。それについては、皆様方には、三年千日の間、年祭活動の上にお励み下さつて、大変ご苦勞様でした。ありがとうございます、お礼を申します。一生懸命つとめた人であるほど、今日の日を勇んだ心で迎えることができたのではないかと思ひます。



今日をもつて、一つの区切りが過ぎましたが、陽気暮らしの世界への道はまだまだ遠いのであります。この長い道のりの道しるべとして、十年ごとに年祭という一つの節目をもうけ、全教が改めて目指すべき処を確認し、心の向きを揃えて、心のふしん、又、形のふしんを進めて、道は今日の姿に至つたのであります。

年祭に向かつてのいわば非常時の歩みは終わりました。これからは普段の歩みになっていくわけ

ですが、普段と言つても、三年前に戻つてしまつたのでは何にもなりません。三年間の努力の上に立つた歩みが続けていかなければならないと思ひます。今日は、新たな歩みだしの日でもあります。どうか皆さん方には、これからも勇んで歩み続け下さることをお願い致しまして、今日の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。



教祖百四十年祭 旭日大教会 帰参者の夕べ

教祖140年祭前日1月25日の夕づとめ終了後、大教会食堂2階にて、帰参者の夕べが開かれました。当日は、久しぶりにおちばにお帰り下さった方々もご参加下さり、会場は笑顔にあふれ、和やかなひとときとなりました。



帰参者に笑顔でご歓談下さる会長様ご夫妻



子供たちの歌声も響き、世代を超えて心つながる夕べとなりました。



温かいおでん、焼きそば、クレープなどで、おもてなし♪



立教百八十九年委員部長講習会（第五十三回）のご案内

日時 令和八年二月二十六日（木）

午前八時 御本部東礼拝場北側集合

午後十二時三十分 大教会にて受付

四十五分 開講

場所 御本部 旭日大教会

内容 御本部月次祭参拝

支部長挨拶

かぐらづとめについてグループワーク

参加費 一、〇〇〇円

持ち物 ハッピー・筆記用具・作成したワークシート

「立教184年委員部長講習会」

教理勉強会 おつとめについて」ファイル

※参加申し込みは、二月十五日までに直属を通して総務または

大教会事務所までお申し込み下さい。また、代理の方が出席

の場合は、直属を通してその旨をご報告下さい。

※やむを得ず、当日参加できない場合は、教理ワークシートを

二月十五日までに提出して下さい。

- | | |
|-------|--|
| 8:00 | ・御本部月次祭参拝
東礼拝場北側8:00頃から委員が待機します。
9:00頃になると揃って参拝は難しくなります。 |
| 12:30 | ・大教会にて受付 |
| 12:45 | ・開講
・支部長挨拶
・新委員部長任命
・司会より連絡 |
| 13:00 | ・昼食 |
| 13:20 | ・グループワーク |
| 15:00 | ・各班まとめ ・閉講
・大教会長様挨拶 |
| 15:30 | ・解散 |

三月例会案内

日時 三月五日（木）午前十時
 場所 旭日大教会
 内容 教祖祭

お願いづとめ
 ておどり（後半下り）
 十全の御守護の学び②
 昼食



女子青年例会案内

日時 2月8日（日）10時
 内容 年間予定話し合い

旭日大教会ホームページより、カラーでご覧頂けます。
 ご活用下さいますようお願い致します。

URL <http://asahi49.net>



三月例会役割

扨者	庄司 英美	関 薫
賛者	山本ひとみ	松田よし子
指図方	木村 昌子	
地方		後半
笛		櫛本
ちゃんぼん		高天
拍子木		直轄
太鼓		直轄
すり鉦		直轄
小鼓		櫛本
琴		
三味線		吉日
胡弓		吉日

二月月次祭事ひのきしん当番

教会	直轄	直轄	櫛本
係員	松田 浩美	松田 文世	

◇係員の方は午前九時十分、会員の方は午前九時十五分までにエプロン三角巾を持参の上お越し下さい。

二月月次祭託児ひのきしん当番

教会	十津川	
係員	南本のぞみ	

◇午前九時より祭典終了までです。

曇らば曇れ、晴れば晴れ

曇らば曇れ、晴れば晴れ。成程の思案を定め。

(おさしづ 明治22年2月25日)



発行日 令和八年二月五日

発行者 岡本道子

発行所 天理市田井庄町一二八
天理教婦人会旭日支部